

# 第162期 報告書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

## 単元株式数の変更、株式併合および定款一部変更に関するお知らせ

当社は、2017年10月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更し、また、投資単位を適切な水準に調整することを目的として、併せて株式併合(5株を1株に併合)を実施いたします。

つきましては、以下のとおりご案内申し上げます。

なお、この株式併合および単元株式数の変更にとまなう株主様による事前のお手続きの必要はございません。

### 1. 株式併合後のご所有

株主様の株式併合後のご所有株式数は、2017年9月30日の最終の株主名簿に記載された株式数に5分の1を乗じた株式数(1株未満の端数がある場合は、これを切り捨て)となります。

### 2. 株式併合による影響

株式併合により株主様のご所有株式数は、5分の1となりますが、株式併合の前後で会社の資産や資本の状況は変わりませんので、株式1株あたりの資産価値は5倍になります。したがって、株式の市況の変動等の要因を別にすれば、株式併合によって株主様のご所有の当社株式の資産価値に影響が生じることは、理論上はございません。

### 3. 1株未満の端数が生じる場合の対応

株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき、一括して売却処分し、または自己株式として当社が買い取り、それらの代金を端数が生じた株主様に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

### 4. 主なスケジュール

- 2017年9月26日 1,000株単位での売買最終日
- 2017年9月27日 100株単位での売買開始日
- 2017年10月1日 単元株式数の変更および株式併合の効力発生日

### 定款の一部変更

会社法第182条第2項および第195条第1項の定めに従い、2017年10月1日付で定款変更が行われます。変更内容は次のとおりです。(下線部は変更部分を示しています。)

現行定款
第5条(発行可能株式総数) 当社の発行可能株式総数は、 <u>300,000</u> 千株とする。
第7条(単元株式数) 当社の単元株式数は、 <u>1,000</u> 株とする。



変更後
第5条(発行可能株式総数) 当社の発行可能株式総数は、 <u>60,000</u> 千株とする。
第7条(単元株式数) 当社の単元株式数は、 <u>100</u> 株とする。

こんなところに  
大阪ソーダ



環境にやさしい自動車ますます求められる今、CO<sub>2</sub>排出量を減らす取り組みのひとつとして、エンジンルームの小型化が進んでいます。小型化すれば熱が逃げづらくなりルーム内の温度が上昇。耐熱性に優れたエポキシ樹脂はエンジンホースの材料として使用されています。



Something Better with Chemicals

エンジンルームの高性能化を支え、  
自動車の環境性向上に貢献しています。



代表取締役会長  
佐藤 存

代表取締役  
社長執行役員  
寺田 健志

## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループは、第162期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況についてご報告申し上げます。

2017年6月

## 第162期の業績概要

当期のわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな景気回復基調が続いているものの、中国をはじめとするアジア新興国などの経済の減速や、米国の大統領選挙結果による為替相場の大幅な変動、世界的な保護主義の拡大懸念などもあり、先行き不透明な状況を抱えたまま推移しました。このような環境のもと、当連結会計年度の連結売上高は、出荷は堅調に推移したものの、原燃料価格などの影響により販売単価が下落したことに加え、住宅設備ほかでは、収益力強化のための事業構造改革を推進しており、935億9百万円と前年同

期比8.4%と減少となりました。利益面におきましては、営業利益は、65億8千6百万円と前年同期比2.2%の増加、経常利益も、65億3千6百万円と前年同期比1.5%の増加、親会社株主に帰属する当期純利益も、43億2千万円と前年同期比19.8%増加となり、各利益とも前年に引き続き過去最高となりました。

当社グループは、クロール・アルカリおよびアリルクロライド・エピクロルヒドリン事業のコストダウンによる競争力強化、ヘルスケア関連事業と合成樹脂・合成ゴムなどの機能化学品を軸とする高付加価値事業の拡大、および競争力強化のための事業構造改革の推進などに取り組み、環境変化の影響を受けにくい収益体質の構築を図ってまいりました。これにより、売上高では、対前年同期比で減収となりましたが、営業利益では、対前年同期比で増益となりました。

なお、期末配当金につきましては1株当たり5円を予定しておりましたが、1円増配の6円とし、中間配当金の5円とあわせ、1株につき年間11円(前期10円)とさせていただきます。

## 今後の対処すべき課題

今後の経済見通しにつきましては、国内は、雇用および所得水準の改善を背景に緩やかに回復していくことが見込まれますが、世界ではナショナリズムの台頭により、各国が集合から離散へと向かう様相を見せており、今後、政治・経済ともにその枠組みは大きく変化し、不確実性が増してくるものと予想されます。

当社グループは、こうした世界の転換期を企業成長の好機とすべく、より積極的な事業戦略を推進するための強固な収益基盤の構築を目指してまいります。その実現に向けて、新製品の上市、海外事業の拡大、ヘルスケア事業の拡大加速に集中的に取り組むとともに、本年10月の新研究開発棟の竣工を機に付加価値の高い独創的なものづくりを推進し、次世代を担う新製品の創出と新領域への拡大により、さらに高い収益力を持つ企業グループへと進化させてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



OSAKA SODA

グループ企業理念

高い志をもち 独創的なものづくりで 豊かな社会の実現に貢献します

基礎化学品

売上高 417億8千3百万円 前期比1.9%減少 ↓

クロール・アルカリは、販売数量は堅調に推移しましたが、市況の影響により売上高が減少しました。

エピクロルヒドリンは、輸出は堅調に推移しましたが、国内需要の減少および市況軟化により売上高が減少しました。

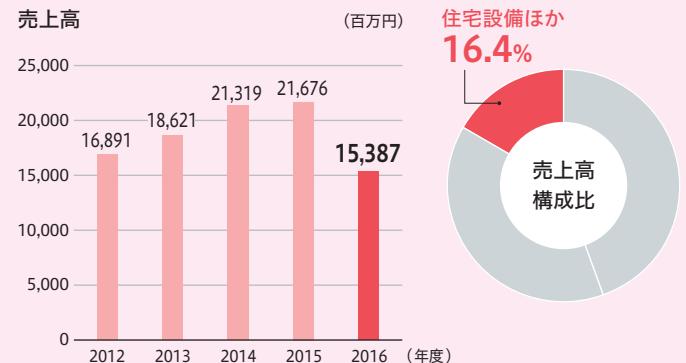
以上の結果、基礎化学品の売上高は、417億8千3百万円と前期比1.9%減少となりました。



住宅設備ほか

売上高 153億8千7百万円 前期比29.0%減少 ↓

化粧板および生活関連商品は事業ポートフォリオ入れ替えなどの影響により、売上高は153億8千7百万円と前年同期比29.0%の減少となりました。



機能化学品

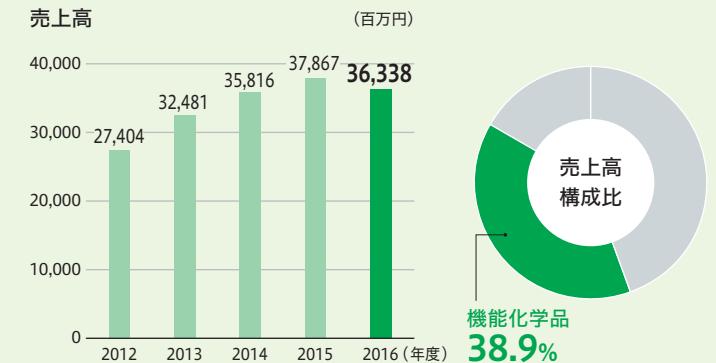
売上高 363億3千8百万円 前期比4.0%減少 ↓

医薬品精製材料は、欧州・中国でのバイオ医薬品精製用途向け販売が増加したことに加えて、国内の分析用途および原薬精製用途向けが堅調に推移したことにより、売上高が増加しました。

医薬品原薬・中間体は、抗ウイルス薬、不眠症治療薬、自己免疫疾患治療薬および新規開発医薬品向けなどが順調に推移し、売上高が増加しました。

ダップ樹脂は、国内のUVインキ用途向けの伸長および米国、欧州向けUVインキ用途で新規顧客の立ち上がり寄与し、堅調に推移したため、販売数量は増加しましたが、為替などの影響により販売単価が下落し、売上高が減少しました。

アリルエーテル類は、シランカップリング剤用途を中心に輸出販売数量は増加しましたが、為替などの影響により販売単価が下落し、売上高が減少しました。



エピクロルヒドリンゴム関連は、中国、インド向け輸出が堅調に推移したため、販売数量は増加しましたが、為替などの影響により販売単価が下落し、売上高が減少しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は363億3千8百万円と前年同期比4.0%の減少となりました。

大阪ソーダグループのセグメントと主要製品

●セグメント

●主要製品

基礎化学品

かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、塗料原料、接着剤原料など

機能化学品

アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、医薬品精製材料、レンズ材料、感光性樹脂、カラーレジスト、電極、医薬品原薬・中間体、光学活性体、グラスファイバー、資源リサイクルなど

住宅設備ほか

ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学薬品の輸送・貯蔵、化学プラント、環境保全設備建設など

「化学でもっといいこと。」を企業スローガンに  
幅広い分野に製品を提供しています。

機能化学品編

ヘルスケア関連を含む機能化学品セグメントの製品群はさまざまな用途で使用されわたしたちの日常の生活シーンで活躍しています。

飛行機



**炭素繊維の補強  
アリルエーテル類**

航空機ボディの炭素繊維の補強剤に使用されています。

工場



**取水配管の保全  
電極**

海中の微生物や貝類などの繁殖を抑え、取水配管内の海洋生物付着防止に役立っています。

オフィス



**デジタルカラー複合機  
エピクロルヒドリンゴム**

半導電特性を活かし、帯電・転写・現像ロールに使用されています。



**パソコン  
アリルエーテル類**

半導体パッケージやプリント基板に使用されています。



**電気制御盤  
ダブ樹脂**

高温、高湿下での電気特性を活かし、電気部品の絶縁材料に使用されています。

車



**燃料・吸排気系ホース  
エピクロルヒドリンゴム**

エンジンの高性能化と環境規制に対応した特殊合成ゴムとして使用されています。



**ランプリフレクター  
ダブ樹脂**

成形性の向上に役立っています。



**低燃費タイヤ  
省エネタイヤ用改質剤**

タイヤに配合されるゴムとシリカの結合を補助する材料として使用されています。

病院



**医薬品**

**医薬品原薬・中間体**

抗ウイルス薬、抗かきよう薬、骨粗しょう症治療薬などに用いられています。



**診断薬や検査薬**

**医薬品原薬・中間体**

肝機能診断薬や小児難病のひとつである胆道閉鎖症の検査薬を販売しています。



**医薬品の分析や分離精製**

**医薬品精製材料**

糖尿病治療薬や高脂血症治療薬などの精製工程で使用されています。



**カップ式自動販売機**

**電極**

自動販売機内部の殺菌のため、小型電極が内蔵されています。

家庭



**白物家電**

**電極**

ボディの鋼板めっきの工程で使用されています。



**フードパッケージ**

**ダブ樹脂**

紫外線を当てると乾燥するUV硬化インキの添加剤として使用されています。



**箔押印刷**

**ダブ樹脂**

箔切れの向上のために使用されています。



**ガスメーター**

**エピクロルヒドリンゴム**

ダイヤフラムに使用されています。



**ピアノ**

**アリルエーテル類**

表面の高光沢塗料に使用されています。



**各種蛍光管**

**資源リサイクル**

使用済み蛍光管などに含まれる水銀を回収し、再資源化を行っています。

## 新製品

## ／ アクリルゴム ラクレスター™を上市

近年、環境への意識の高まりから、低燃費のエコカーが好まれるようになり、欧州を中心にターボ搭載車が増加しています。その結果、エンジンルーム内の高温化が進み、これまで以上に高い耐熱性を持つゴムのニーズが高まってきました。そこで、当社は、2017年4月に高い耐熱性を持つアクリルゴム(製品名ラクレスター™)の販売を開始しました。この製品は150~180℃の高温下で使用でき耐油性にも優れることから、今後、エンジンルーム内の燃料系・吸排

気系ホース向けに最適な素材として拡販を行ってまいります。



## 新製品開発

## ／ 抗体医薬品精製用 アフィニティゲルを開発

近年、医薬業界において、抗体医薬品が著しい成長を続けています。それにともなって、この精製に必要となるアフィニティゲルの需要が拡大しています。

当社はシリカゲルおよびアガロースの2種類の担体に独自の遺伝子組換え技術で自製の高性能プロテインAを固定させたアフィニティゲルを開発しました。

当社製品は、抗体の吸着容量が大きいだけでなく洗浄の際に使用されるアルカリへの耐性を持つ

ため、繰り返し使用できるという特長を兼ね備えています。

今後はこれらの特長を国内外の製薬メーカーに訴求し、本格的な上市に向けて採用実績を積み重ねてまいります。



## 新製品開発

## ／ UVインキ用途向け新規アリル樹脂を開発

近年、環境意識の高い欧米を中心に、有害な有機溶剤を使用しないUV硬化インキへの切替が進んでいます。ダップ樹脂は、すでに優れた速乾性からUV硬化インキの添加剤として広く採用されていますが、当社では新たに欧米向けフードパッケージ印刷用途をターゲットとした新規アリル樹脂を開発しました。

現在は早期上市に向けサンプルワークにも力を入れており、UVインキメーカーから高い評価をいただくなど、採用への取り組みが順調に進んでいます。



## 新設備導入

## ／ サンヨーファインに特殊反応設備を導入

医薬品原薬・中間体の生産を担うサンヨーファインでは、松山・福井の2工場で積極的な設備投資を行なっています。

松山工場ではマイナス80℃の特殊条件下での反応を可能とする超低温反応設備を導入し、さまざまな医薬品の合成に寄与しています。

さらに福井工場において、本年6月に加圧条件下で水素を利用して還元できる中圧接触還元装置を設置し、新薬メーカーからの新たな受託獲得を図ってまいります。



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期末 (2016年3月31日現在)	当連結会計期末 (2017年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	57,137	58,739
固定資産	39,890	42,764
有形固定資産	20,357	21,555
無形固定資産	1,192	1,207
投資その他の資産	18,339	20,001
資産合計	97,027	101,503
<b>負債の部</b>		
流動負債	30,669	31,390
固定負債	18,062	17,387
負債合計	48,731	48,778
<b>純資産の部</b>		
株主資本	43,312	46,576
その他の包括利益累計額	4,983	6,149
純資産合計	48,296	52,725
負債純資産合計	97,027	101,503

## 連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自 2015年4月 1日 至 2016年3月31日)	当連結会計期間 (自 2016年4月 1日 至 2017年3月31日)
売上高	102,125	93,509
売上原価	84,357	75,335
売上総利益	17,767	18,174
販売費及び一般管理費	11,324	11,587
営業利益	6,443	6,586
営業外収益	633	456
営業外費用	637	506
経常利益	6,439	6,536
特別利益	18	—
特別損失	727	582
税金等調整前当期純利益	5,730	5,953
法人税、住民税及び事業税	2,029	1,822
法人税等調整額	94	△189
当期純利益	3,606	4,320
親会社株主に帰属する当期純利益	3,606	4,320

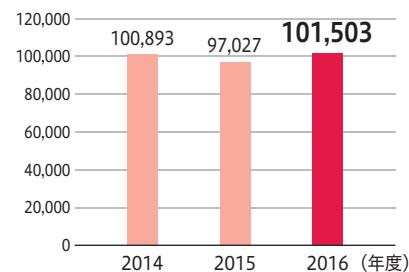
## 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自 2015年4月 1日 至 2016年3月31日)	当連結会計期間 (自 2016年4月 1日 至 2017年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	5,031	8,490
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,535	△3,145
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,433	△3,506
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△423	△341
現金及び現金同等物の 増減額	△1,360	1,496
現金及び現金同等物の 期首残高	20,095	19,036
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	301	—
現金及び現金同等物の 期末残高	19,036	20,532

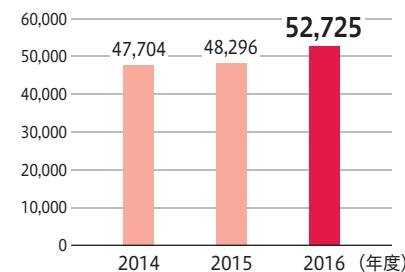
## 総資産

(単位:百万円)



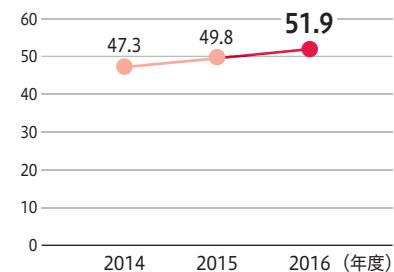
## 純資産

(単位:百万円)



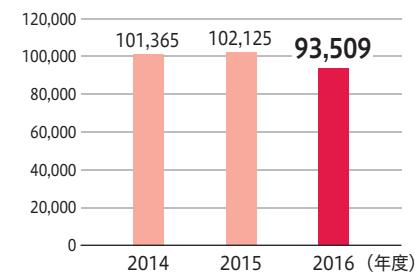
## 自己資本比率

(単位:%)



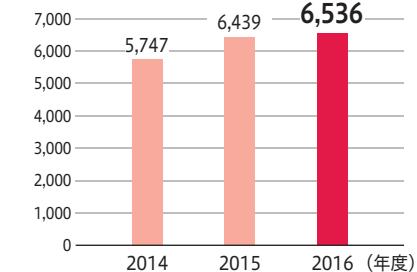
## 売上高

(単位:百万円)



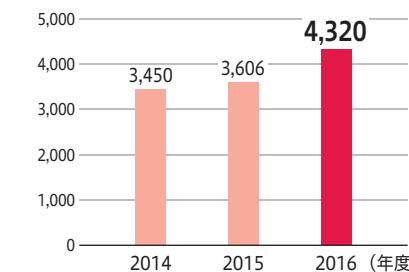
## 経常利益

(単位:百万円)



## 親会社株主に帰属する 当期純利益

(単位:百万円)



社 名 ----- 株式会社大阪ソーダ  
 OSAKA SODA CO., LTD.  
 U R L ----- <http://www.osaka-soda.co.jp/>  
 創 立 ----- 1915年(大正4年)10月26日  
 資 本 金 ----- 10,882百万円  
 連結従業員数 ----- 850名

子会社等の状況

国内

会 社 名	主要な事業内容
ダイソーケミカル(株)	化学製品の販売
ダイソーエンジニアリング(株)	電極の製造販売、化学設備の設計・施工
サンヨーファイン(株)	医薬品原薬・中間体の製造販売
(株)ジェイ・エム・アール	資源リサイクル
DSロジスティクス(株)	化学製品の運送取扱い
岡山化成(株)	化学製品の製造
DSウェルフーズ(株)	機能性食品素材の製造、加工販売

海外

会 社 名	主要な事業内容
DAISO Fine Chem USA, Inc.	医薬品精製材料の製造販売
DAISO Fine Chem GmbH	医薬品精製材料、医薬品原薬・中間体の販売
大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
台湾大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
DAISO CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.	機能化学品・電子材料等の輸出入

役員 (2017年6月29日)

[取締役・監査役]

代表取締役 会長	佐藤 存
代表取締役 社長執行役員	寺田 健志
取締役 常務執行役員	赤松 伸一
取締役 上席執行役員	堀 登
取締役 上席執行役員	古川 喜朗
取締役(社外)	福島 功
取締役(社外)	二村 文友
常勤監査役	瀬川 恭史
常勤監査役(社外)	谷口 隆治
監査役(社外)	森 真二

[執行役員]

執行役員	小西 淳夫
執行役員	北野 智之
執行役員	平地 勤
執行役員	門屋 純一
執行役員	雑賀 哲行
執行役員	高野 早人
執行役員	西本 光伸



株式の状況

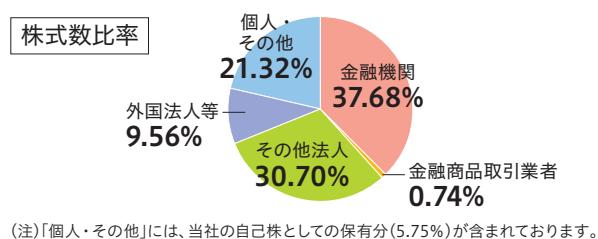
発行可能株式総数 ----- 300,000,000株  
 発行済株式の総数 ----- 111,773,837株  
 株主数 ----- 5,450名

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,699	4.46
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,384	4.16
株式会社福岡銀行	4,113	3.90
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,842	3.64
株式会社伊予銀行	3,744	3.55
帝人株式会社	3,393	3.22
株式会社みずほ銀行	3,348	3.17
日本生命保険相互会社	3,188	3.02
旭化成株式会社	2,933	2.78
ダイソー協栄会	2,889	2.74

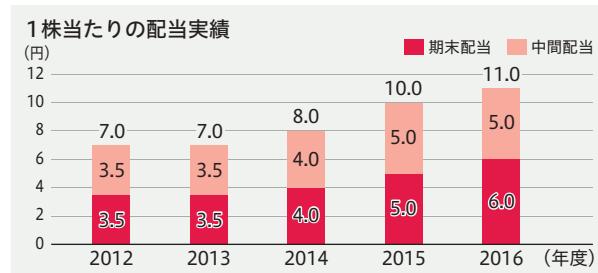
(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(6,428,225株)を控除して計算しております。

株主分布状況

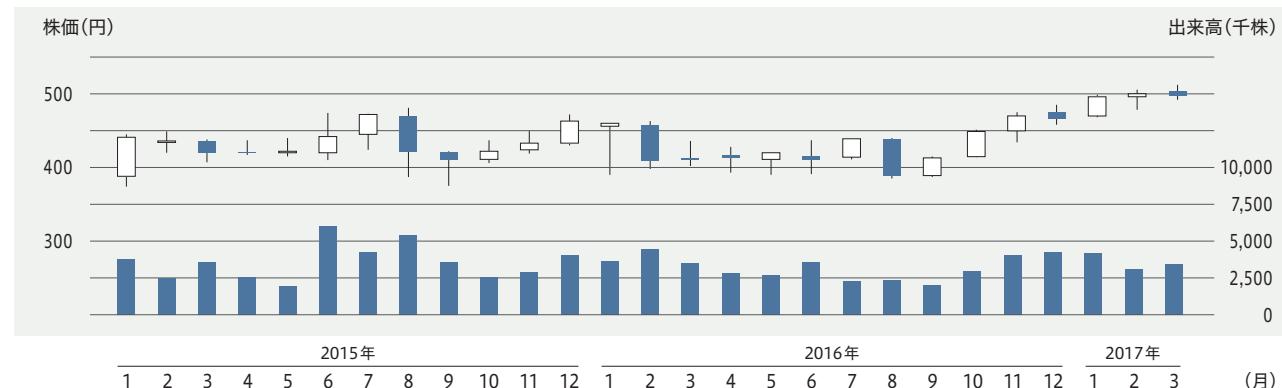


配当金

1. 期末配当金 1株当たり6円(年間11円)
2. 支払開始日 2017年6月12日(月)



株価および出来高の推移



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
 期末配当金受領株主確定日 3月31日  
 中間配当金受領株主確定日 9月30日  
 定時株主総会 毎年6月  
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 TEL 0120-094-777(通話料無料)  
 上場証券取引所 東京証券取引所

公告の方法 電子公告により行います。  
 公告掲載URL <http://www.osaka-soda.co.jp/>  
 (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問合せください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

マイナンバーに関するお知らせ

2016年1月からマイナンバーの利用が開始されました。市区町村から通知されたマイナンバーは、当社が作成する配当金や株式の譲渡取引に関する支払調書など法令に定められた調書に記載し、税務署へ提出する必要があるため、株主様からお取引の証券会社等へお届出いただく必要がございます。

〈マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先〉

証券口座で当社の株式を管理されている株主様	お取引の証券会社
証券会社とのお取引がない株主様	上に記載の三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

ホームページアドレス  
<http://www.osaka-soda.co.jp/>

